

計画策定にかかる意見交換会（地域福祉を考えるワークショップ）について

（１）目的

「（仮称）みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン3」の策定にあたり、地域の方が感じている課題や、望むこと、地域福祉のためにできると考えていることなどを確認し、計画内容に反映することを目的として、各地区で意見交換会を開催しました。

（２）会の概要

実施期間：

令和6年11月～令和7年3月

開催：

意見交換会は地区単位で開催とし、各地区での周知・参加呼びかけ等を含め、13地区の地区社会福祉協議会の協力をいただきました。

なお、一般への開催周知は、市広報（令和6年10月号）への掲載としました。

参加者：


自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会などの地域団体からほか、ボランティア関係者、地域包括支援センター、福祉施設・事業所などから、13地区で403名の参加がありました。

意見交換・集約の方法：

「みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン2」の概要を説明したのち、次の2つのワークテーマについて各グループで、付せんを使って意見やアイデアなどを出し合いながら、意見交換を行う形としました。

- ① 「この地区で取り組まれている活動」を共有する
- ② ①を踏まえ、「これからの地域での支え合いに必要なこと」について意見を出し合う


グループワーク①
地域で取り組んでいることをシェアする



【ポイント】

- ・地域で取り組んでいることで**知っている**取り組みはありますか？
- ・**参加している**取り組みはありますか？
- ・身近に感じる「地域の支えあい」「地域のつながり」はありますか？

グループワーク②
**これからの地域の支え合いのあり方と
そのために必要なことを考える**



【ポイント】

- ・グループワーク①「地域で取り組んでいること」を意識して
- ・**将来に残していきたい取り組み**はありますか？
- ・取り組んでいく中で、**大切にしたい視点**はありますか？
- ・さらに**充実させたいこと**はありますか？

そのためには、どんなことができるでしょうか。

各グループワークで出された意見は基本目標ごとに整理し、集約することとしました。

【グループワークの意見より 基本目標ごとのまとめ】

基本目標1 つながる

＊自分と異なる人を理解・受け入れること／ギャップを埋める・交流などが大事

・新しい人、外国の人を受け入れる体制・気持ち
・外れている人をどう取り込むか

・サロン・多世代交流を増やしたい
・子育て不安の方によりそう

＊日ごろの関係づくり、まず、あいさつ

・あいさつ運動、声かけで顔を繋いでいく
・近隣相互のコミュニケーション
・犬の散歩(=日常)から交流が生まれる

＊大切なのはきっかけ・場所

・近く(歩いて行ける)・楽しめる
・だれでも・気軽さ・選べる・柔軟さ
・いつ行っても誰かがいる場所を作りたい

＊地域行事・伝統行事を活かしたら

・出(たが)らない人をひっぱり出す⇒お祭り!
・もちつき 子どもや地域のつながりのため
・歴史を伝えることの大切さ・継続が大事

＊気になる人に、どう声をかけていくか?

・新しく来た人、男性、若い人、障がい、認知症など…来てほしい人がきてくれない
・きっかけになるメリットを
・他世代・他団体同士の交流を図る

＊アクセスなどが課題

・歩くの大変 行けない・出かける足の問題

＊つながる方法も変化している

・メール、LINE、web会議・アナログも
・新しいコミュニケーションツールの説明会

＊魅力的な活動、負担の軽減も大事

・やって楽しい、楽しそうと思わせる活動
・もっと知ってほしい 魅力のアピール
・役員、世話役の負担を減らす

・子どもの時から他年代で関われる場づくり

<現時点での次期計画の方向性・取り組み>

取り組みの方向性	主な取り組み
◆多様性の理解促進	・交流による相互理解の促進
◆出会い・つながりづくり	・出会いが生まれるきっかけづくり
◆つながりの継続	・多様な居場所づくり ・つながり続ける工夫

基本目標2 活動する

*今やっていることを みんなに見てもらう

- ・いろいろな情報を入れる ・SNS発信（誰がやる？）・広報ターゲットをしぼる
- ・活動のベース 自治会での情報共有が大事 ・誰もが情報を得られるシステムを作って

*活動の意義、やりがいを伝える

- ・何のために活動するのか
- ・使命感 →活動が楽しい →役に立つことがうれしい →だから長続きできる この想いをつないでいく

*自分を活かせる、ちょっとでも…を伝える

- ・趣味、できること、昔の経験が活かせる
- ・スポット参加OK ・全部じゃなくて一部
- ・個人で参加できる ・ゆるさが大事！
- ・気軽に ・自由に、自主的に

*やりたくてもやれない …担い手不足

- ・まずは見に来てほしい →まずつながる一步を何から出来るか ・継続のためにスリム化
- ・分担 皆で助けあう←やれることをやれる人がやる ・団体同士のつながり

*子ども（小中高生）の活躍の機会も

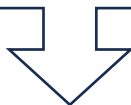
- ・福祉まつりに中学生が司会、吹奏楽、似顔絵で参加
- ・避難所運営をこども達にやってもらう
- ・防災リーダー 中学生くらいからできるのでは？
- ・お菓子などの配布 きっかけづくり

*現役世代とつながるには

- ・土日休日の活動
- ・地引網、もちつき、家族参加できるイベント
- ・子育て世代の参加を増やす
- ・おみこしにはなぜ若者が来るのか
→担ぎたい →飲み屋で誘われた

*間口を広げるアイディア

- ・高齢者と子どもがバーチャルで繋がる ・“会”とか“場”にかわるツールで運営する
- ・福祉の出前サービス 歌声喫茶 自治会に出張
- ・魅力的なイベントを実施（大人の） ・伝統が絡むとなくなる？



<現時点での次期計画の方向性・取り組み>

取り組みの方向性	主な取り組み
◆地域活動の活性化につながる情報発信	・参加・活動したくなる情報を届ける工夫
◆地域とつながる人を増やす 多様な参加の機会づくり	・多様な主体ができることを活かせる機会の拡充 ・担い手の育成・支援

基本目標3 支え合う

＊共に支え合う 地域で取り組めることを話し合う（検討する）ことが大事

- ・活動内容の共有の場
- ・閉じこもっている人に出て来てほしい どうしたら良いか？ ⇒話し合える場が大事
- ・普段のつながりが変化に気づける（ボランティアの利用者が逆に自分を見守っていてもくれる）
- ・高齢者の家の付近が片付いているか気にかけていく

＊“支え手・受け手”を超えて 共に支え合う

- ・支えるから支えられるにも →これまでサロン等運営側だったが参加者に
- ・普段の隣近所のつながりが災害時にも役に立つ
…女子会 一緒にお昼を食べてお話
- ・ピンチに助け合える体制

＊現役世代との協働が必要

- ・若者サロン 居酒屋ワイワイ スナック eスポーツ bar

＊団体の枠をこえる

- ・各組織、団体の活動の共有化…お互いの理解を活用する
- ・皆で同じ LINE にする

＊地域を知ってもらい、他との協力を

- ・企業理解の促進（地域活動に対する）
- ・地元企業との強力なコラボレーション

<現時点での次期計画の方向性・取り組み>

取り組みの方向性	主な取り組み
◆地域の課題に地域で取り組むことができる体制の拡充・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの拡充・強化 ・本人や世帯からの視点を尊重した支援体制づくり ・本人らしい暮らしを支える体制づくり ・福祉的な関りで地域社会での暮らしを支える体制づくり
◆本人・世帯を中心とした相談支援体制の充実	
◆地域で暮らし続けることを可能とする仕組みづくり	